

「ふるさとへの祈り」
泊 如 竹

(対象：小学6年生)

(出典「不屈の心（小学校上学年用）」p11～p20)

1 主題名 「ふるさとを大切にすること」

2 ねらいと資料

(1) **ねらい** 4－(7) 郷土愛

郷土のために努力した人の願いや郷土の伝統・文化のよさに気づき、自分の郷土を愛する心情を育てる。

(2) **資料名** 「ふるさとへの祈り」 (関連資料 私たちの道徳 小学校5・6年 p164～p165)

3 主題設定の理由

(1) **ねらいとする道徳的価値【価値観】**

本主題は、「郷土や我が国の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ」という道徳的価値「郷土愛」の内面化を図る学習である。

自分たちの生活している地域である郷土（ふるさと）を愛する心は、地域での生活やそこに暮らす人々とのかかわりを通して育まれていく。それは、自分を育ててくれた地域を大切にしたいという思いであり、そこを離れても生涯にわたって精神的な支えとなるものである。

この期の子どもたちは、自分たちが育ってきた地域の特徴や歴史を学び、郷土への誇りや郷土を愛する心をもつようになってきている。また、日常生活において、郷土の伝統行事の意味や価値について考えることで郷土への親しみやありがたみをもつようになってきている。その一方、郷土を外側から見る視点を十分にもてななかったり、先人の苦労や心情に対して十分に共感できていなかったりすることがある。そこで、郷土の発展に尽くして文化や伝統を育てた先人の努力を知ることによって、自分自身もそれを継承し発展させる責任があることに気づき、郷土をよりよくしていこうとする心情を育成する必要がある。

(2) **児童生徒の実態【児童観】**

学校生活において最高学年として生活する6年生は、学校行事や地域の郷土行事においてもリーダーとして活躍し、地域の小学生をリードして様々な行事に参加することが多い。そのような中で、郷土の特徴や歴史を学び、郷土への誇りや郷土を愛する心をもつようになってきている。また、学校での学習においても、道徳の時間以外の指導としては、以下のようなものが挙げられる。

ア 社会科

日本の歴史を学習する中で、地域の歴史についても目を向け、地域の歴史や先人の功績について学んでいる。

イ 特別活動

地域清掃や地域に関わるボランティア活動などの、地域の方々との関わりや地域で活動することをとおして、地域の特徴やよさについて感じている。

ウ 総合的な学習の時間

学校によってカリキュラムは異なるが、地域の素材や伝統について、自ら課題をもって主体的に調べたり、表現したりする活動をおして、地域の一員として生活することの大切さや、これからも地域の伝統や文化を大切にしていこうとする心を養うことを学んでいる。また、地域のボランティア活動に参加することで、地域を愛することを実践をおし

て学んでいる。

(3) 資料について【資料観】

本資料は、鹿児島県屋久島の安房地区に伝わる「如竹踊り」という県の無形民族文化財にも指定されている踊りの由来を基に、「泊如竹」というお坊さんの郷土に尽くした功績についてまとめたものである。

1570年に屋久島で誕生した泊如竹は、様々な寺で修行を重ねる。そのような厳しい修行を積んだ如竹は、やがて諸国の大名家から、次々に顧問として招かれるようになった。また、大名や琉球の国王に学問を教えたり、為政者としての心構えを解いたりした。このように各地を渡り歩いてきた如竹は、自分の生まれ故郷である屋久島の人々のことをいつも気にかけていた。その姿から、如竹は、日頃から郷土を誇りに思い、郷土に住む人々のことを考えて修行に励んでいたことがわかる。

また、如竹は、自分が蓄えたお金を村人に分け与えたり、用水路を引いたり、屋久杉を年貢として納めることができるようにしたりして、郷土の人々のために力を注いだ。このような様々な如竹の言動から、如竹の郷土を愛し、郷土のために尽くす心情を考えさせるとともに、今なお、「如竹踊り」として地域に残されていることの意味を考えさせていきたい。

4 指導の展開にあたって

(1) 事前に資料を読ませるポイント

事前に次の視点で読ませ、感想をもたせておくようにする。

ア 視点1：泊如竹の言動をとおして、郷土に対する思いや願いについて

イ 視点2：「如竹踊り」として伝統を大切に受け継いでいるのはなぜかについて

(2) 取り上げる場面と指導内容

取り上げる場面	ページ	指導内容
屋久島の安房地区では、「如竹踊り」という踊りが伝えられている場面	11 } 12	「如竹踊り」という言葉に着目させ、昔の人の名前が付けられた踊りを、今でも伝えられているということに、どうしてこの踊りが伝えられているかという課題をもたせる。
如竹が、修行に励みながらも故郷のことを気にかけていた場面	13	如竹は、修行に励みながらも、常に故郷（屋久島）の人々のことを気にかけ、郷土を大切に思いながら生きていたことから、自分が生まれ育った郷土に対する愛情に気付かせる。
故郷に帰ってきて、島民の苦しい生活を見て、如竹が心を痛めた場面	14	故郷に帰郷し、人々が相変わらず苦しい生活をしている姿を見て、心を痛めているのはどうしてか考えさせる。
故郷のために、如竹が尽力した場面 (1)用水路を引く。 (2)屋久杉の利用。 (3)水難事故防止。	15 } 20	如竹は、郷土の人々の苦労や悩みを何とか解決できないかと悩み、その方策を考え、課題解決に向けて実行してきた。そして、死後も、郷土の人々のために、河口近くのお墓から、みんなが安心して、安全に暮らせるように見守ると遺言を残したことから、常に郷土のために自分の力を注ごうとした心情を考えさせる。
如竹の功績をたたえて、島民が今でも「如竹踊り」として受け継いでいる場面	20	地域の先人や歴史を大切にし、地域を思う心を大切に受け継いでいこうとしている屋久島安房地区の人々の思いや願いについて考えさせる。

5 授業の展開

(1) 本時

過程	主な学習活動等	時間	主な発問 (T) と予想される児童生徒の反応 (・)	指導上の留意点
導入	<p>1 地域のために自分から進んで取り組んだ経験について話し合う。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">郷土を大切に思い、郷土のために生きていくためにはどんな気持ちが必要だろうか。</p>	7分	<p>T これまで地域のために自分から進んで取り組んだことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源回収に参加した。 ・清掃活動をしたよ。 <p>T 自分の住む地域で、昔から伝わる伝統や文化にはどんなものがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋祭りがある。 ・妙円寺詣りに参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の地域に目を向けさせ、地域で行われている伝統行事や催しについて目を向けさせ自分の取り組み方に焦点化する。 ○ 地域の人々が、地域に伝わる伝統行事を受け継いで大切にしているか考え、学習課題を立てさせる。
展開	<p>3 資料「ふるさとへの祈り」を読み、泊如竹や地域の人々の気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) 18歳で屋久島を出てから修行や学問に励んだ如竹は、島の人たちのことをどう思っていたか考える。</p> <p>(2) 78歳で島に帰った如竹の気持ちについて考える。</p> <p>(3) 島の人々のために用水路を引いたり山にこもって神に祈ったりした時の如竹の気持ちについて考える。</p> <p>(4) 今でも「如竹踊り」の伝統を受け継いでいる地域の人々の気持ちについて考える。</p>	30分	<p>T 今日のお話は屋久島に伝わる「如竹踊り」のお話です。如竹とは人の名前で泊如竹といいます。</p> <p>T 屋久島を出てから修行や学問に励んだ如竹は、島の人たちのことをどう思っていたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の修行をがんばろう。 ・島の人たちに会いたいな。 ・島の人たちは元気かな。 <p>T 島に帰った如竹は、どんな気持ちになったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久しぶりで懐かしい。 ・苦しい生活をしている。 <p>T 島の人たちのために色々なことをした如竹は、どんな気持ちで取り組んだのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの生活をもっと豊かにしたい。 <p>T 屋久島の人たちは、どんな気持ちで「如竹踊り」を踊っているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・如竹に感謝したい。 ・地域を愛する心をみんな 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心を高めるために、本文を読む前に登場人物の写真を見せたり、時代や屋久島の位置など紹介したりする。 ○ 島を離れ、寂しい思いを感じながらも、島の人たちのことを考えて、自分の修行に打ち込んだ如竹の心境を考えさせる。 ○ 島の人たちの苦しい生活を見て悲しむ中でも、課題を見つけ、課題に向かって改善を図った如竹の心の強さに気付かせる。 ○ 如竹だけではなく、地域全体でよりよい生活を求めた姿にも気付かせる。 ○ 如竹の功績を称え、今でも「如竹踊り」として、如竹の生き方を偲び、地域の発展を共に願いながら生活して

			で忘れないようにしている。	いくことの素晴らしさに気付かせる。
終末	<p>4 これまでの自分を振り返り、本時の学習をとおして気付いたり、生かしたりしたいと思ったことについてまとめ、話し合う。</p> <p>5 自分のふるさとを見つめ実践意欲を高める。</p>	8分	<p>T 今日の学習で学んだことを考えながら、これまでの自分とこれからの自分について考えてみましょう。</p> <p>・ぼくは、あんまり地域のことを考えたことはなかったけど、如竹みたいにふるさとを大切にする人になりたいな。</p> <p>T 自分のふるさとを紹介しましょう。</p>	<p>○ 自分とふるさととの関わりに目を向けさせ、これからの自分はどうのようにふるさとや地域と関わっていくか、ということに焦点化して、今後の自分の生き方を見つめさせる。</p> <p>「私たちの道徳 5・6年」(p165)</p>

(2) 板書

主題名 ふるさとを大切に思う心

資料名 ふるさとへの祈り (屋久島・如竹の郷土)

ふるさと(郷土)

- ボランティア活動・清掃活動・ゴミ拾い
- あいご会の行事・募金活動
- 校区の運動会・夏祭り・みこしかつぎ
- 妙円寺詣り・お正月行事

めあて

郷土を大切に思い、郷土のために生きていくためにはどんな気持ちが必要だろうか。

島を出て修行に励む如竹

島に戻った如竹

ただいま、なつかしいな。
島の人たちが、苦しい生活をしている。
なんとか島のために頑張りたい。
島の人たちを幸せにしたい。

島の人たちは、元気に生活しているかな。
島のこともしっかり考えて、自分の修行を頑張ろう。
島の人たちに会いたいな。島にもどりた。

島の人たちの役に立ちたい

如竹踊りをする人々

如竹のふるさとへの思いを受け継ぎたい。
お礼とこれからも見守ってほしいという思い。

○ 飲み水を手に入れることが困難

○ 用水路を作成する

○ 年貢を納めることができない。

○ 屋久杉を安心して活用

○ 人々の水難事故

河口近くに墓を建ててほしい

6 実践後の評価

- 導入段階では、屋久島や如竹についての写真を提示して資料への興味・関心を高めることができた。
- 展開段階では、如竹がどんな思いで郷土の人々のために様々なことに取り組んだのかワークシートに自分の考えを書かせて対話活動を行った。友達との意見交流を通して、自分の考えを高めたり、確かめたりすることができた。
- 終末段階では、今なお如竹を偲び、郷土を大切にすることを如竹踊りとして伝えている屋久島の人々のことを考えさせ、郷土の伝統を大切にする心情を高めることができた。

今までの自分をふりかえって
わたしは紫原が大好きです。い
い人がいっぱいだし、桜がきれい
にぎやかだからです。
わたしはできるだけ紫原の
行事に参加するようにがんば
ります。今年はおみこしに参
加しました。みんなが笑顔に元
気になってにぎわいました。
わたしも、如竹と同じくらいの
ふるさとへの思いがあります。
如竹のように行動につづいて入
るをきよばせる入にになりたいです。

【授業後の子どものワークシート】

「新しい芸術を求めて」
有 島 生 馬

(対象：小学5年生)

(出典：「不屈の心（小学校上学年用）」p51～p60)

1 主題名 「息をのむほどの感動」

2 ねらいと資料

(1) ねらい 3－(3) 敬虔

美しいものに感動する心を大切にし、崇高なものを尊び、真に美しく清らかなものを見出そうとする態度を育てる。

(2) 資料名 「新しい芸術を求めて」(関連資料「私たちの道徳」小学校5・6年p116～p117)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

本主題は、「美しいものに感動する心や人間を超えたものに対する畏敬の念をもつ」という道徳的価値「敬虔」の内面化を図る学習である。

人間は美しいものを見て素直に美しいと感じる心や、人間の力を超えた神秘的な世界に感動する崇高な感情を潜在的にもっていると考えられる。しかし、メディアの発達や多忙化する生活状況などから、実際に人の心や自然、芸術作品といった美しいものや気高いものに触れる機会が少なくなり、感動したり尊敬したりする経験も少なくなってきた。今日のこのような状況だからこそ、美しいものや崇高なものに触れさせ、畏敬の念をもてるようにすることが必要である。そして、人間としての在り方をより深いところから見つめ直すことができるように指導することが大切である。

この期の児童は、周囲の目を気にして少し冷めた見方で物事を捉えようとしたり、利害や打算の気持ちが強くなり、美しいもの、清らかなもの、崇高なものにあまり目が向かなくなったりする傾向がある。素直に美しいと感じたり、感動したり、尊敬したりする感情は、人間にしか獲得できない素晴らしい感情であることに気付かせ、それを大切にしたいと願える心情を養っていくことが必要である。また、既に経験していることを丁寧に掘り下げていくことも大切である。これまでの経験を共感的に受け止め、再構成、再組織していくことで、経験がより価値あるものとなっていく。

(2) 児童の実態【児童観】

純粹・素直な児童が多く、感性も豊かであるが、メディアを通じた疑似体験からの感動経験が多く、実体験や自然、本物の迫力による感動経験には乏しいところもある。

美しいものに感動する心を大切にし、崇高なものを尊び、真に美しく清らかなものを見出そうとする態度を育てるために、道徳の時間以外の指導としては、次のようなものがある。

ア 国語

椋鳩十作「大造じいさんとガン」は、狩人の大造じいさんが、ガンの群れの頭領である残雪との戦いの中で、残雪に対して尊敬とも言える感情を抱く物語教材であるが、児童はこれを読んで感動を味わい、大造じいさんの思いに共感することができた。また、他の椋鳩十作品や自然に関する読み物を読むことを通して、自然や動物に敬意を抱いたり、それを慈しむ人間たちの崇高さや偉大さを感じとったりすることもできた。

イ 音楽

9月に鹿児島大学学友会吹奏楽団の演奏を聴く音楽鑑賞会があった。初めてオーケストラの演奏を聴いたという児童もいて、オーケストラによる演奏の迫力を味わい、本物の素晴らしさ、音楽の素晴らしさを全身で感じ、感動を味わえた。

ウ 集団宿泊学習での登山活動

集団宿泊学習において、大浪池での登山活動を行った。好天にも恵まれ、苦勞して励まし合いながら登りついた山頂からの景色や眼下に見下ろせる美しい池の風景は、感動的であった。自然の美しさ、偉大さを感じ、生きている素晴らしさをみんな味わうことができた。

(3) 資料について【資料観】

本資料は、鹿児島県出身の実業家有島武の次男、有島生馬の生涯をまとめたものである。生馬は、兄に小説家として「一房の葡萄」などの作品を残した武郎、弟に「安城家の兄弟」などの作品を残した里見弴をもつ。生馬は、十八歳で肋膜炎を患い、父のふるさとである川内で療養生活を送った。そこで出会ったカトリックの神父さんにイタリアの芸術を紹介されたのがきっかけで、イタリアに渡って絵の勉強がしたい、という決意をする。

資料の中で、生馬の感動が三つ紹介されている。一つ目が、幼いころに出会った油絵、西洋画との出会いである。二つ目が、フランスの画家ピサロの画集を目にしたときである。「こんな絵を描いてみたい。」とその瞬間に、画家への道を歩むことを心に決める。三つ目が、フランスでのポール・セザンヌの絵との出会いである。「やっと探し求めていた新しい芸術に巡り合えた」と確信する。この三つの感動との出会いの際の生馬の心情を考えることを通して、感動を味わうことへの憧れをもたせ、感動を味わうにはどんな気持ちや心構えが必要かを考えさせることができる教材である。

生涯にわたって美を追い求め、芸術を追い求め続けてなお、新たな感動を得られる生馬の心情や生き方に迫らせていきたい。

4 指導の展開にあたって

(1) 事前に資料を読ませるポイント

本資料を事前に次の視点で読ませ、感想をもたせておくようにする。

ア 視点1：主人公が衝撃を受けた三つの場面とは

イ 視点2：主人公に共感するところ

(2) 取り上げる場面と指導内容

取り上げる場面	ページ	指導内容
生馬が西洋画と出会った場面	51 ～ 52	初めて見た油絵の素晴らしさに感動するあまり、足を止めていつまでも見入ってしまった少年時代の生馬の心情に共感させる。
ピサロの絵と出会った場面	55 ～ 56	ピサロの絵の生き生きとした迫力に、「ウワッ」と心臓がとまりそうになるぐらいに驚き、その瞬間に画家への道を歩むことを心に決めた生馬の心情を考えさせる。
ポール・セザンヌの絵と出会った場面	57 ～ 58	イタリア留学では飽き足らず、フランスにまで行って西洋画を学んでいた生馬が、セザンヌの絵と出会い、息をのむほど心を打たれ、「やっと探し求めていた新しい芸術に巡り会えた」と確信したときの気持ちを考えさせる。

5 授業の展開

(1) 本時

過程	主な学習活動等	時間	主な発問(T)と予想される児童生徒の反応(・)	指導上の留意点
導入	1 生馬に関する新聞記事を読む。 2 事前学習の結果を聞く。 3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「息をのむほどの感動」を味わうには、どんな気持ちや心構えが大切なのだろう。 </div>	5分	T 有島生馬について知っていることがある人はいますか。 T 油絵を実際に見たことのある人は、どれくらいいたと思いますか。 T 知っている芸術作品にはどんなものがあったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> 生馬に関する新聞記事を紹介し、関心を高める。 パワーポイントを使って、事前学習のワークシートの結果を紹介し、芸術への関心を高める(油絵の知識、知っている芸術作品の画像)。 めあてをワークシートに記入させ、価値の焦点化を図る。
展開	4 資料を読みながら3つの出会いそれぞれの生馬の心情を考える。 (1) 初めて油絵を見た生馬 (2) ピサロの画集を見たとき	32分	T 初めて油絵を見た生馬はどんなことを考えていただろう。 <ul style="list-style-type: none"> まるで魔法のようだ。 こんな絵もあるんだ。 僕の絵の具ではあらわせないよ。 何て美しい絵なのだろう。 仕上がりを最後まで見届けたい。 ぼくもこんな絵を描きたい。 T ピサロの画集を見たとき生馬はどんな気持ちだっただろう。 <ul style="list-style-type: none"> ぼくもこんな絵を描いてみたい。 西洋の絵ってやっぱり素晴らしいな。 感動した。 あこがれるな。 病気は心配だけど外国で勉強したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生馬の心情に迫れるように、黒板に生馬の写真や場面の絵、電子黒板に場面の絵を提示する。 ほかの友達みんな帰っても、いつまでも立ち去ることができなかったのはなぜなのかを考えさせる。 「ウワッ」と心臓がとまりそうになるぐらいの驚きとはどんなものかを考えさせる。 健康面に不安を抱えながら画家になる、海外に留学するというのとは簡単なことではないことをおさえなが

	<p>(3) セザンヌの絵を見たとき</p> <p>5 息を飲むほどに何かに感動するには、どんな気持ちや心構えが大切かを考え、話し合う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の夢，目標は決まった。 <p>T セザンヌの絵を見たとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こんな絵をかきたい。 ・ まだ，こんな絵もあったのか。 ・ やっと探し求めていた絵に出会えた。 ・ 感動のあまり言葉がでない。 <p>T 息を飲むほどに何かに感動するにはどんな気持ちや心構えが大切でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 興味をもつ。 ・ 疑問をもつ。 ・ 目標をもつ。 ・ 夢をもつ。 ・ 純粋な心 ・ 素直な心 ・ 好奇心 ・ 美しいものを求める心 ・ 追究する心 ・ 自然を大切にすること ・ 謙虚な心 ・ 誠実な心 ・ 尊敬する心 ・ 人の苦勞や痛みを理解しようとする心 ・ できるまで繰り返す。 	<p>ら，心情を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 息をのむほどに心を打たれるとはどんな気持ちなのか，これまでの感動とはどう違うのかを考えさせる。 ・ 同じ経験をしていても，感動する人と感動しない人がいるのは，何が違うのか考えさせる。 ・ 一人で考えた後に，グループで話し合わせ，グループで出されたものを発表させる。 ・ 自然や人間への感動が芸術作品となって表現されていることに気付かせる。
<p>終末</p>	<p>6 「私たちの道徳」を読み，本時の学習で思ったこと考えたことを文章にまとめる。</p>	<p>8分</p>	<p>T 奥村土牛という人は日本画を101歳まで描き続けた方です。</p> <p>T 今日の学習で思ったこと考えたことをワークシートに書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯にわたって美を追究した先人の生き様から，感動すること，追究することへの憧れの気持ちをもたせるよう，働きかける。 ・ 奥村土牛を紹介し，「私たちの道徳」を朗読した後，ワークシートに本時を通して考えたことを綴らせる。

(2) 板書



6 実践後の評価

- 事前学習用ワークシートを配付し、これまでの経験や視点について考えさせておくことで、効率的にスムーズに学習が展開できた。
- 可能な限り高画質の状態で、電子黒板の大画面で絵画を映し出すことで、芸術作品を見たときの感じ方に近づけることができた。
- 個人で考えたものをグループで共有し、全体で全てを紹介し合うことで、多くの考え方を知ることができ、自分の気付かなかった感じ方を取り入れようとする児童が多く見られた。
- 「私たちの道徳」の奥村土牛の話と関連が深く、終末段階で取り上げることで、児童の感じ方が一層深まった。
- 思いをたっぷり書き綴らせることで、本時の学習を自分なりの解釈でまとめ直したり、これまでの経験の意義を再構築したりすることができた。



【電子黒板で絵画を提示】



【思ったことを綴る】

《児童の振り返りの一部》

- 私は、有島生馬のように、息をのむほど感動したことはありません。これからは、求めていたことを目指し、純粋な心をこころがけることから始めて、息をのむほどの感動とは、どんな気持ちか味わってみたいと思うことができました。
- 有島生馬さんは、夢がかなうまでイタリアやパリなどにまで留学を繰り返したからこそ、「スザンナ」という素晴らしい絵ができたんだと思いました。病気になってもヨーロッパに行く決心をしたことがすごいと思いました。ぼくも、こんな心をもてたいです。
- 有島生馬さんと奥村土牛さんの努力におどろきました。息をのむほどの感動を味わう方法は、たくさんありました。それを、油絵をかく人はもっているんだと知りました。私は、尊敬する気持ちが大切かな、と思いました。これからはいろんなことに興味をもって、感動したいです。
- ぼくは、息をのむほどの感動をしたことはありません。それは、夢や目標をもたないで、尊敬する気持ちもないからだと思います。なので、夢や目標、尊敬する気持ちをもって、いつか息をのむほどの感動をしたいです。

「海が好き」
今給黎 教子

(対象：小学6年生)

(出典)「不屈の心 (小学校上学年用)」 p 71～p 80)

1 主題名 「自分の夢をかなえるために」

2 ねらいと資料

(1) ねらい 1－(2) 希望、勇気、不撓不屈

自分のよさを生かし、目標を立て、くじけずに希望と勇気をもって取り組み、その目標に向かって着実に前進していこうとする態度を育てる。

(2) 資料名 「海が好き」 (関連資料 「私たちの道徳」 小学校5・6年 p18～p21)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

本主題は、「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する」という道徳的価値「希望、勇気、不撓不屈」の内面化を図る学習である。

急速に変化する時代、また、物質的に豊かになった社会の中で、子どもたちは時代の先行きに不安を感じたり、あふれる物に囲まれて無目的に過ごしたりしていることも少なくない。そこで、自分らしさを見つめ、目標をもち、目標に向かってやりぬくことの大切さを自覚させたい。これが心の支えになり、夢を実現していくことにつながっていく。また、その過程での充実感こそが、努力することの大切さを身に付ける力となる。

この期の子どもたちは、自分のよさを見つめ、将来の自分の職業や挑戦してみたいことなどを具体的にイメージして表現できるようになってきている。また、日常生活において、夢に向かって努力することの意味や価値について考えることで、自分の思いや願いを実現させるためには日々の努力が大切であるという考えをもつようになってきている。その一方、自分の目標や夢を見付けられなかったり、苦しいことからさけ、夢に向かって努力することの気持ちよさに十分に共感できていなかったりすることがある。そこで、自分の夢に向かって希望をもち、その夢を実現させるために勇気をもって挑戦し、苦難にも挫けない不撓不屈の心情を育成する必要がある。

(2) 児童生徒の実態【児童観】

学校生活において子どもたちは、学習面や生活面など、自分のめあてを立てて生活している。また、自分の将来のことを考え、自分のよさをいかして将来なりたい夢や、自分がしてみたい希望など、自分の夢を育てている。反面、自分のめあてや夢が立てられなかったり、今の自分の生活に楽しみや希望をもてず、生きることに對して意欲をもてていなかったりする子どももいる。そこで、授業や学校行事を通して、自分が努力したいことを考えたり、友達と共に目標を立てたりして希望をもって努力することのよさや成就感が味わえるようにしている。道徳の時間においては、先人の生き方に共感させ、自分も夢に向かって努力しようとする道徳的心情を高めるようにしている。道徳の授業以外の指導としては、以下のようなものがある。

ア 社会科

日本の歴史を学習する中で、地域の歴史についても目を向け、先人の功績について学ぶ学習を行っている。

イ 特別活動

運動会や文化的行事などの学校行事に向け、役割や責任をもって主体的に取り組ませている。

(3) 資料について【資料観】

本資料は、鹿児島県の海洋冒険家である今給黎教子さんの幼小期から、現在までをまとめており、特に、日本人女性では初となる単独無寄港世界一周についてまとめたものである。

1965年に日置市で誕生した今給黎教子さんは、幼小期から海が大好きで、海への強いあこがれを育んでいた。また、中学時代にロビン・リー・グレアム著書の「ダブ号の冒険」に出会った教子さんは、具体的にヨットでの世界一周を夢見るようになっていった。その後、高校や職場でヨット部に所属し、自分の夢への挑戦が始まっていった。

そして1988年に、太平洋単独往復に成功し、その後1992年に278日間をかけて、単独無寄港世界一周という快挙をあげる。その過程においては、自分の夢に挑戦する中で、家族や周りの人々、自然など、すべてのものに感謝の気持ちをもって生きている姿が表現されている。

また、その後も「海の学校」の校長先生として鹿児島県の子どもたちに海のすばらしさを伝え、多くの子どもたちに勇気と夢を与え続けている姿に感動することができる。

4 指導の展開にあたって

(1) 事前に資料を読ませるポイント

事前に次の視点で読ませ、感想をもたせておくようにする。

ア 視点1：自分のよさをいかし、夢や希望をもって生きていく姿について

イ 視点2：自己実現の過程において周りの人々への感謝の心をもつことについて

(2) 取り上げる場面と指導内容

取り上げる場面	ページ	指導内容
中学時代に「ダブ号の冒険」を読んだ場面	72 ～ 73	「ダブ号の冒険」を読み、自分のよさを生かして、ヨットによる世界一周の旅をしてみたいと夢を広げていく教子さんの心情を捉えさせる。
1年間かけて世界一周の旅に向けてサポートチームと共に準備をする場面	75	十ヶ月もの間長い航海を一人で過ごす上で必要な準備や手配について考えさせ、サポートチームと共に準備に取り組む教子さんの心情について考え、自分だけでなく周りの人々への感謝の気持ちについても押さえる。
世界一周の航海中の苦難の中で一人で解決して取り組んだ場面 (1) サイクロンの暴風雨 (2) 氷山との戦い (3) ヨットの故障	77	多くの人たちの協力や応援をもらって、錦江湾から世界の海へこぎ出したヨットだったが、その後サイクロンの暴風雨や氷山との戦いなどの課題の中で、自分の思いや周りの人々の願いを基に、苦難を乗り越えた教子さんの心情を考えさせる。
様々なトラブルや困難を工夫と勇気で乗り越え、世界一周を成し遂げた場面	78 ～ 79	278日の困難の日々を乗り越えて、無事に世界一周を成し遂げた時の教子さんの気持ちを考えさせ、夢や希望を達成できた時の心情や、それを支えてくれた周りの人々への感謝の気持ちについて考えさせる。
今でも「海の学校」の校長先生として子どもたちに勇気と希望を与えている場面	80	自分の経験を通して、子どもたちに、夢や希望をもって生きることの大切さを伝えようとして「海の学校」の校長先生として活躍している教子さんの心情について話し合い、自分も夢や希望をもって、自分らしく自分の人生を生きていくことの大切さについて考えさせる。

5 授業の展開

(1) 本時

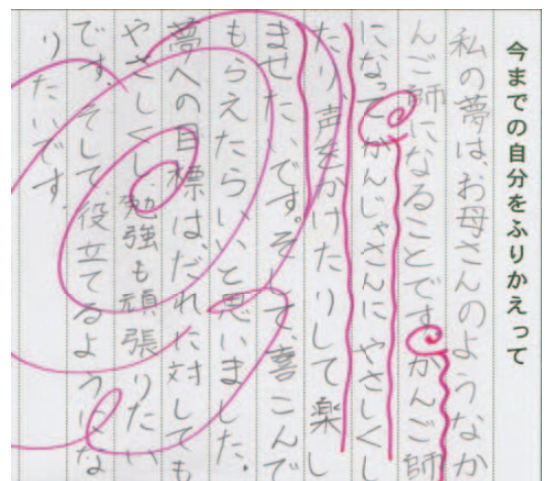
過程	主な学習活動等	時間	主な発問 (T) と予想される児童生徒の反応 (・)	指導上の留意点
導入	<p>1 目標を立て、希望と勇気をもって、努力できた時の気持ちとできなかった時の気持ちを話し合う。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>自分の夢や目標をかなえるためには、どんな気持ちや考えが大切だろうか。</p> </div>	7分	<p>T 目標を立て最後まで努力できた経験はありませんか。</p> <p>・運動会のリレーでみんなで毎日練習した。</p> <p>T あきらめてしまった経験はありませんか。</p> <p>・野球を習っていたがあきらめてやめてしまった。</p> <p>T できたりできなかったりする経験がありますね。今日の学習はどんなめあてにしたらいいでしょうか。</p>	<p>○ 自分の夢や希望について、これまでの自分自身の取組について目を向けさせ自分の取り組み方に焦点化する。</p> <p>○ できた時やできなかった時の心情を考え、それぞれの心情から学習課題を立てさせる。</p> <p>○ 個人のめあてを発表させた後、全体のめあてを示すようにする。</p>
展開	<p>3 資料「海が好き」を読み、教子さんの気持ちや考えを中心に話し合う。</p> <p>(1) 中学時代に「ダブ号の冒険」を読んだ教子さんはどんな気持ちをもったか考える。</p> <p>(2) 仲間と共に1年間かけて準備をした教子さんの気持ちを考える。</p> <p>(3) 世界一周をめざす中で困難がある中でも、工夫と勇気をもってそれらを乗り越えた教子さんの思いを考える。</p>	30分	<p>T 今給黎教子さんを知っていますか。</p> <p>T この資料のどんなところを話し合いたいですか。</p> <p>T 教子さんは、「ダブ号の冒険」を読んでどんな気持ちになったのでしょうか。</p> <p>・自分も世界一周をしたいという夢をもった。</p> <p>T 教子さんはどんな気持ちで世界一周の準備をしたのでしょうか。</p> <p>・準備が大変だな。やめてしまおうかな。</p> <p>・サポートチームに感謝の気持ちをもった。</p> <p>・色々勉強するのは大変だったと思う。</p> <p>T 渡航中にどんな困難がありましたか。</p> <p>・大波や氷山との戦い。</p> <p>T どんな気持ちで困難を乗り越えたのだろうか。</p> <p>・自分の夢を叶えたい。</p> <p>・自分を支えてくれた人たちのためにも成功させたい。</p>	<p>○ 興味・関心を高めるために、登場人物の紹介をしてから資料を読ませる。</p> <p>○ 自分から進んで夢や希望をもった教子さんの気持ちに共感させる</p> <p>○ 様々な準備やヨットに関する修理の知識や技能など、たくさんの準備に気付かせ、その中でも、自分の夢に向けてチャレンジする楽しさや喜びに気付かせる。</p> <p>○ 様々な困難がある中でも、工夫と勇気、そしてサポートチームの協力で乗り越えた教子さんの思いや願いに気付かせる。</p>

	(4) 自分の夢である世界一周を成し遂げた時、教子さんはどんな気持ちだったか考える。		T 世界一周という自分の夢をかなえた教子さんはどんな気持ちだったでしょう。 ・今まで頑張ってたよかったです。 ・感謝の気持ちでいっぱい。	○ 自分の夢をかなえた達成感や感謝の気持ちに気付かせる。
終末	4 これまでの自分を振り返り、本時の学習をとおして気付いたり、生かしたりしたいと思ったことについてまとめ、話し合う。	8分	T 今日の学習で学んだことを考えながら、これまでの自分とこれからの自分について考えてみましょう。 ・自分の夢に向かって頑張っていきたい。 ・努力と感謝の心が大切だ。	○ 資料を通して考えたことをこれからの自分の生き方に生かしていくように、これからの自分の生き方に目を向けさせていく。

(2) 板書

6 実践後の評価

- 資料を読む前に今給黎教子さんの写真やヨットの写真を提示することで資料に興味関心をもたせることができました。また、航海地図を指でたどらせることで、長い航海を一人で過ごした教子さんの気持ちに共感させることができました。
- 自分の夢を達成できた場面では、ワークシートにその時の気持ちを書かせたり、役割演技をさせたりして、夢や目標を叶えた時の達成感や達成感に気付かせるようにした。また、達成できたのは、自然やサポートチームや応援してくれたたたくさんの人々のお陰だということに気づき、感謝の気持ちをもっている教子さんの気持ちに共感させることができました。



【児童が終末に書いたワークシート】

- 終末段階では、資料から自分自身に振り返り、自分の夢や目標に向かって努力していこうという実践意欲を高めることができました。

「夢を追いかける」
川崎宗則

(対象：小学5年生)

(出典：「不屈の心(小学校上学年用)」p91～p100)

1 主題名 「目標に向かって、くじけずに」

2 ねらいと資料

(1) ねらい 1－(2) 希望、勇気、不撓不屈

より高い目標を立てて、困難や失敗にもくじけることなく、常に希望と勇気をもって努力を積み重ねることによって、その目標を達成しようとする心情を高める。

(2) 資料名 「夢を追いかける」 (関連資料「私たちの道徳」小学校5・6年p18～p27)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

本主題は、「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する」という道徳的価値「希望、勇気、不撓不屈」の内面化を図る学習である。

急速に変化する時代や忙しい日々の生活の中で、先行きに不安を感じたり、目標や目的を見失い何となく周囲に流されながら惰性で過ごしてしまったりしている児童は少なくない。希望や勇気をもって前向きに努力を積み重ね、夢や目標に向かって邁進することへの憧れを抱かせ、児童自らが計画を立て能動的に取り組む意志と態度を育てることが求められている。

この時期の児童は、ある人物の生き方にあこがれたり、自分の夢や希望がふくらんだりして、それぞれに高い理想を追い求める時期だといわれる。同時に、失敗や他者との比較から自信を失ったり、周囲に流されたり苦難を乗り越えられなかったりして夢と現実との違いを意識したりする時期でもある。このような時期であるからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、計画的に努力目標を立て、くじけずに希望と勇気をもって取り組み、その理想に向かって着実に前進していこうとする強い意志と実行力を育てる必要がある。自分自身をしっかり見つめ、将来の夢や自分にあった目標を定めること、他者との比較でなくこれまでの自分と比べて取り組むこと、地道な努力を継続すること、苦難にぶつかったときこそが大切であることなどについて気付かせていくことが大切である。

(2) 児童の実態【児童観】

好きなことに没頭して取り組み労を惜しまない児童が多くいる一方で、「自分はこんなもの」と自分に限界を決めてしまったり、貪欲になれなかったりすることも多い。

より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する心情を高めるために、道徳の時間以外の指導としては、以下のようなものがある。

ア 国語

毎月教科書教材の中で30秒から1分程度の暗唱教材を決め、全校で取り組んできた。はじめは「こんなに長いのは無理」と弱音を吐いていた子も、練習を繰り返すうちに着実にできるようになり、月を追うごとに少しずつ難易度の高い文章を短時間で暗唱できるようになってきた。小刻みな目標設定を行うこと、繰り返し練習すること、努力すれば力は必ず向上することなどを学ぶ機会となっている。

イ 算数

計算や教科書の問題の完全習得を目指し、練習やテスト、再テストを繰り返してきた。はじめは解けなかった問題も、正しい方法で、繰り返し粘り強く練習することで、速く正確に行えるようになってきた。正しい方法で丁寧に取り組むこと、繰り返し練習すれば必ずできるようになることなどを実感する機会となっている。

ウ 家庭科

5年から始まる家庭科学習では、初めての経験が多くある。特に裁縫は、玉結び、玉止め、ミシンのセッティング、ミシンの使い方等、手先の器用さを必要とするものや難しい手順等を覚えなくてはならないものが多い。活動を通して、はじめはうまくいかなかったこともあきらめずに粘り強く繰り返せば、少しずつ着実に上達することを経験することができた。

(3) 資料について【資料観】

本資料は、鹿児島で生まれ育ち、プロ野球選手となって活躍している川崎宗則さんの少年時代から現在までをまとめたものである。どこにでもいるような野球少年だった川崎選手が、日本を代表とする選手となり、現在はアメリカメジャーリーグでも多くのファンをもつにまで成長した川崎宗則さんの足跡をたどりながら、苦難や挫折を味わいながらも決してくじけず前向きに夢を追いかける姿勢の素晴らしさを学ぶことができる。

また川崎選手へのインタビューによって得られた言葉や、「準備をしっかりする」、「自分で限界を決めてはいけない」、「失敗を繰り返し、怒られながら、少しずつ」など、夢や理想に向かって取り組む上で参考になる言葉が多く書かれているので、それらをもとに自分の姿勢を考えさせることを通して、児童の中により積極的な自己像が形成されるようにしたい。

4 指導の展開にあたって

(1) 事前に資料を読ませるポイント

本資料を事前に次の視点で読ませ、感想をもたせておくようにする。

ア 視点1：川崎選手が苦勞したり悩んだりしたこと

イ 視点2：川崎選手の生き方から学びたいところ

(2) 取り上げる場面と指導内容

取り上げる場面	ページ	指導内容
第一回WBC決勝戦で活躍した場面	91 ～ 92	川崎選手の紹介を簡単にするとともに、すぐ近くの地域の出身の選手が、世界中の注目を集める大会で活躍をしていることをとらえさせる。
幼少時から高校時代の川崎選手の場面	92 ～ 95	どこにでもいそうな普通の野球少年だった川崎選手が、コツコツ練習を続け、学業もおろそかにせず、充実した少年時代を過ごしていたことに気付かせる。
プロ野球選手になってからメジャーリーグに進むまでの場面	95 ～ 97	挫折や苦勞にめげずにがんばったこと、自分に限界を決めてはいけないことに気付いたこと、色々な人の支えがあったこと、感謝の気持ちを忘れていないこと、夢に迷いがないこと、などに気付かせる。
川崎選手のメッセージやインタビューから	95 ～ 100	しっかりと準備するように心がけていること、状況に応じてベストを尽くすこと、夢に向かって自分なりにできることを一生懸命行うこと、やりたいことだけでなくいろんなことをやることなど、川崎選手の言葉から学ぶところを見つける。

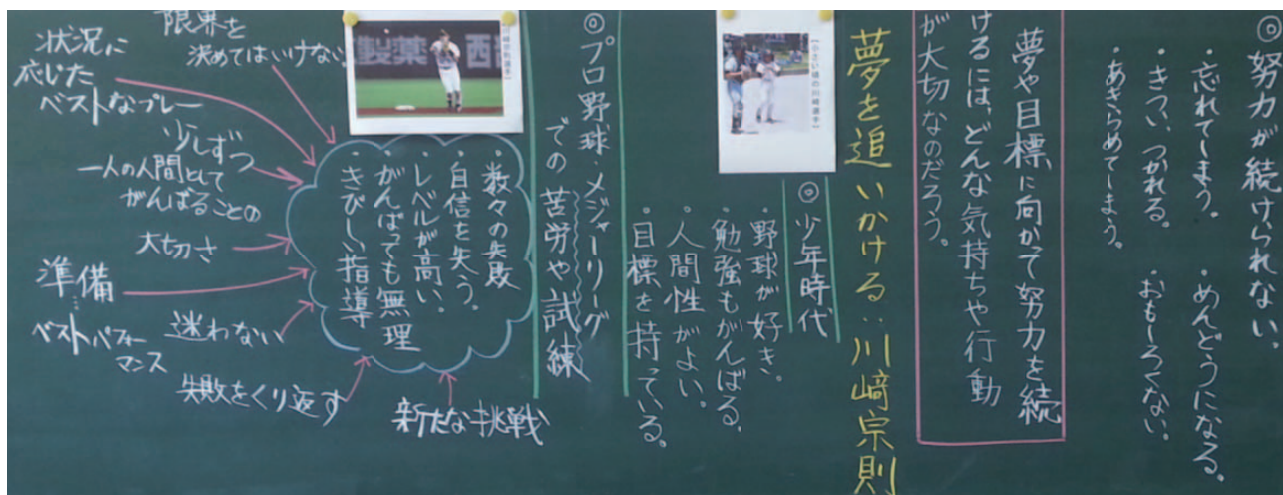
5 授業の展開

(1) 本時

過程	主な学習活動等	時間	主な発問 (T) と予想される児童生徒の反応 (・)	指導上の留意点
導入	<p>1 努力を続けられなかった経験を思い出し、その理由を考える。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>夢や目標に向かって努力を続けるには、どんな気持ちや行動が大切なのだろうか。</p> </div>	5分	<p>T 今、夢や目標に向けて努力していることを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習 ・ 習い事 ・ スポーツ 等 <p>T 努力を続けることができなかつたのはどんなときですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つかれた。あきた。 ・ 面倒くさい。 ・ 自分には無理だ。 ・ 遊びたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前学習用ワークシートの内容から紹介する。 ○ これまでの経験を想起させ、自分にある心の弱さを理解し、それを克服するにはどうしたらよいかという問題意識をもたせる。
展開	<p>3 資料「夢を追いかける」を読み、川崎選手の気持ちや生き方を中心に話し合う。</p> <p>(1) 第一回WBC決勝戦で活躍した場面や新聞記事を読み、川崎選手の現在の活躍を知る</p> <p>(2) 幼少時から高校時代の川崎選手はどんな少年だったのか考える</p> <p>(3) プロ野球選手、メジャーリーグの選手として、どんな思いをもって野</p>	3分	<p>T 現在の川崎選手の活躍を知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビや新聞で見たことがある。 ・ アメリカでもとても人気がある。 ・ とても楽しそうにプレーしている。 ・ ガッツあふれるプレーをしている。 <p>T 幼少時から高校生までも鹿児島で過ごした川崎選手は、どんな少年だったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野球が大好き。 ・ 繰り返し壁とキャッチボールをしていた。 ・ 野球だけでなく勉強も頑張っていた。 ・ ファンに夢を与えられる選手になりたい。 ・ 鹿児島が大好き。 <p>T プロ野球やメジャーリーグではどんな苦労や試練があったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自信を失う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最近の新聞報道を電子黒板で紹介し、現在の活躍について簡単に説明する。 ○ ガッツあふれるプレーや前向きで明るい人間性で、アメリカでも大変人気のあるプレーヤーであることを紹介する。 ○ 自分自身の生活とも比べさせながら、どこにでもいそうな普通の野球少年だったことをとらえさせる。 ○ 「繰り返し」というキーワードに着目させる。 ○ 書き込み用教材文プリントに、苦労や試練が書かれているところには

展 開	<p>球に取り組んできたのか考える。</p> <p>(4) メッセージやインタビューの言葉から、学べることを考える。</p> <p>4 これから夢や目標に向けて努力していく際に、心がけたいことを考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ レベルが高い。 ・ 頑張っても無理。 ・ コーチの厳しい指導。 <p>T 苦労や試練にどう向き合ってきたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厳しい指導に感謝 ・ 繰り返す。 ・ 少しずつ ・ 限界を決めない。 ・ 一人の人間として頑張ることの大切さ ・ 挑戦 ・ 迷わない。 <p>T メッセージやインタビューから学べることはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 準備をしっかりと。 ・ 状況に応じたベストなプレー ・ 夢に向かって自分なりにできることを一生懸命行う。 ・ 思い続ける。 ・ やりたいことだけでなくいろんなことを楽しむ。 ・ 先生や指導者の言うことを聞く。 <p>T 川崎選手の気持ちや行動から自分も取り組んでみようと思うことを見つけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思い続ける。 ・ 限界を決めない。 ・ 常にベストを尽くす。 ・ 失敗をこわがらない。 ・ 少しずつ続ける。 	<p>青、乗り越える気持ちや行動が表れているところには赤のサイドラインを引きながら考えさせる。</p> <p>○ 書かれている言葉だけでなく、そこから想像できる川崎選手の思いや行動も、自分の言葉でワークシートに表現させる。</p> <p>○ ワークシートに書いたものをグループで交流し、新たな考え方に気づいたり、自分の考えを整理して考え直させたりする。</p> <p>○ 当たり前のことの中に、夢や目標の達成のために大切なことがあることに気付かせるよう働きかける。</p> <p>○ ワークシートに書かれた言葉に蛍光ペンで印をつけさせたり、自分で決めたことを記入させたりして、これからの具体的な取組への意欲を高める。</p>
終 末	<p>5 教師の説話を聞き、本時の学習で思ったことや考えたことを文章にまとめる。</p>	7 分	<p>T 今日の学習で思ったことや考えたことをワークシートに書きましょう。</p>	<p>○ 川崎選手の最新著書「逆境を笑え」を紹介し、一部分を朗読した後、ワークシートに本時を通して考えたことを綴らせる。</p>

(2) 板書



6 実践後の評価

- 事前学習用ワークシートを配付し、視点について考えさせたり、今努力していること、資料を読んで疑問に思ったこと等を書かせたりしたことで、効率的にスムーズに学習が展開できた。
- 資料の中に生き方のヒントとなるキーワードが多くあり、それを中心として考えを深めることができた。更に焦点化して、いくつかの言葉に絞ることで、一層深く考えることができた。
- 一人で考えたことをグループで交流することで、考えを広げ、深めることができた。
- 書き込み用教材プリントを配付することで、色分けしながらサイドラインを引いたり書き込んだりして、言葉に着目して、深く考えることができた。また、自宅でもう一度読むことを楽しみにしている子もいた。
- 自分が今後意識していきたいことをワークシートに記入させたり、授業をとおして思ったことや考えたことを綴らせることで、自己を見つめ直し、具体的な実践意欲につなげることができた。
- 川崎選手の活躍を知らせる新聞記事や著書などを教室に設置しておくことで、多くの児童が興味をもって見ていた。



【グループ意見交流】



【今後の取組の記入】

《児童の振り返りの一部》

- 「限界を決めてはいけない」、「新たな挑戦」という言葉が一番心に残りました。
- 川崎選手は、立花コーチにきびしい指導、怒られながらも苦勞や試練に向き合いながら練習してきたと思います。わたしも自分から挑戦することが大事だと思いました。
- 川崎選手のあきらめない強い心や迷いのない心にすごいと思いました。ぼくも夢に向かって強い心をもっていきたいです。
- 川崎選手はどんな苦勞があっても迷わないし、限界をきめないところがすごいと思いました。私も、迷わずあきらめず、色々なことをがんばっていきたいです。
- 失敗を繰り返してもくじけずに前に向かっていくということはすばらしいことだと思います。ぼくも、川崎選手のようにねばり強く、くじけずに、前に向かって行って夢を実現していきたいです。